
青い春

愛原 恵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青い春

【Nコード】

N8782A

【作者名】

愛原 恵

【あらすじ】

初恋の相手を偶然見かけた楓、、、

初恋の相手

二人の姉妹が、楽しく話しながら歩いていくと、横を一人の長身の男が自転車に乗って、走って行った。
「あつ、、、」

楓はドキツとした。

中学生のときからずっと好きだった人だった。

彼とは会えば、話しをしていた。

立花慶。クラスでもリーダーシップをとり、明るく人気者の彼は、みんなから好かれていた。実際に好きだという女子もいた。楓もそのうちの一人だった。
彼は誰とでも話す、気さくなタイプで、その端正な容姿やさしさで、モテるのも納得の人だった。

彼とは、中学１年生のときに同じクラスになった。席が隣になったときなどは、よく、共通の趣味であった、映画の話をしていた。
「あの映画はラストがいまいちだった」

「あれはつまんなかったよね」

「やっぱりあの監督の映画でもコケることはあるんだよね」

というふうに、よく笑ったりしていた。

ただ、そのことをよく思わなかったクラスの女子に、因縁をつけられもした。

気弱な楓はそれから、彼を避けるようになった。

話かけられても、軽くシカトしたり、目が合っても反らしたり、中１の後の半年は、二人が話すことはなくなってしまうた。

慶は、なんで無視されるのか分からず、何回か楓に、聞いてみたが、楓は、答えもせずに、逃げていた。

その態度から、慶のほうも、楓を避けるようになっていった。

中２、中３は二人が同じクラスになることもなかったたので、二人が

中学時代に話したのは、わずか半年であった。
小学校も二人は別々だった。

しかし、高校は、たまたま偶然同じなのだ。

高校受験のときに、見かけて、楓は内心、驚くのと同時に、少しの嬉しさを感じた。

共に受ければいいな。
と、思っていた。

受験を終え、発表までの間、ドキドキして、家の近所の公園を散歩していると、偶然、慶が通りかかった。

慶も楓に気づき、じっと見つめてきた。楓は昔みたいに目を反らせようとしたが、何故か反らせず、ずっと数秒見つめたままだった。

たった数秒なのに、本当に長く長く感じた。一瞬がここまで長いとは、。。
二人は言葉を交すことなく、通り

すぎただけだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8782a/>

青い春

2010年11月2日03時22分発行